

嗚呼青春の

(昭和五年寮歌)

児山信蔵君 作歌
有村徹君 作曲

一

嗚呼青春の夢高く

理想のあとに憧憬れて

楡の花散る学都にぞ

啓示を求む若人は

綺花を流して逝く水に

十九の春を嘆くなり

二

牧場の緑草踏みしだき

栗毛の駒に鞍置きて

うち振る鞭の音も高く

希望の太空を朗らかに

寮歌を歌ひつ眺むれば

白雲流れゆく手稲山静か

三

学堂の古鐘の沈みゆき

楡陵の蒼空に銀月冴えて

羊の群の片影もなし

沈黙の原始に散りしける

落葉踏みゆく雄き子は

三年の絢夢に涙する

四

疎林のほとり夕陽は落ちて

閑さへも絶えし真夜に

涯なく白き石狩の

銀雪に連なる曠野の静寂

震はせ乍ら橈唄は

神秘の闇を縫ひてゆく

五

北斗は遠く七星清し

「妄執」の現世を見下して

真実一路の迪恵ぬ

「意気」と「血潮」に生くる子の

瞳に燃ゆる紅焰は

永遠なる生命の証なり